

滋賀県内の労働災害発生状況

平成24年4月
滋賀労働局

死傷災害は2年連続で増加！！

～前年比で34人（2.6%）増加～

1. 概況

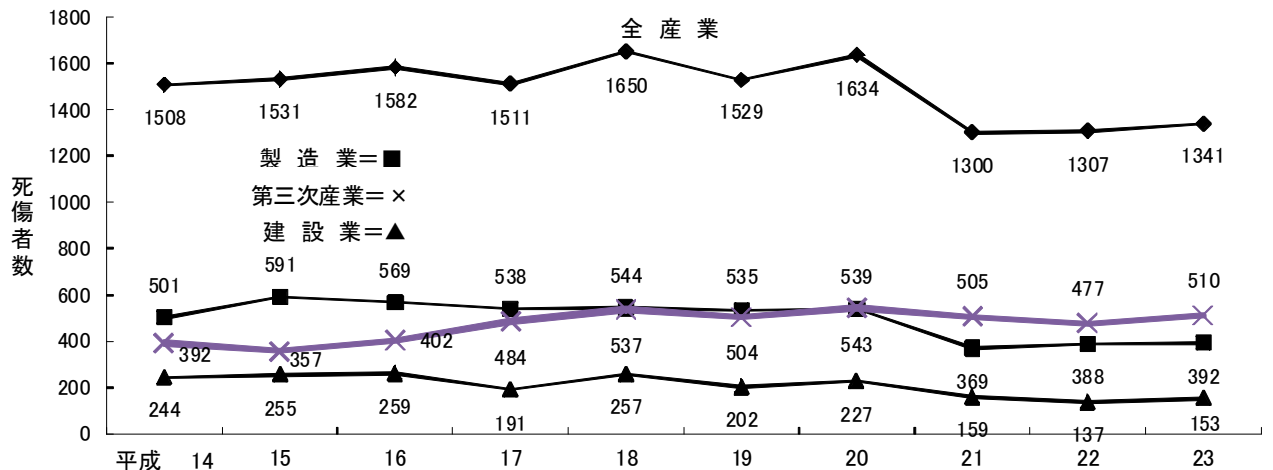
① 災害発生状況

滋賀県内の労働災害による休業4日以上死傷者数は、第1図に示すように、昨年に引き続いて2年連続で増加となった。

平成23年の休業4日以上死傷者数は、全産業で1,341人となり、前年に比べ34人（+2.6%）の増加となった。

業種毎の内訳では、製造業が392人（前年比+1%）、運輸交通業が170人（前年比+3%）とそれぞれ前年比で増加しているほか、第三次産業（交通運輸業及び貨物取扱業を除く。以下同じ。）は510人（前年比+6.9%）、建設業は153人（前年比+11.7%）となっており、特にこの2業種において前年と比較しての増加の動きが顕著である。

<第1図> 休業4日以上死傷者数の推移

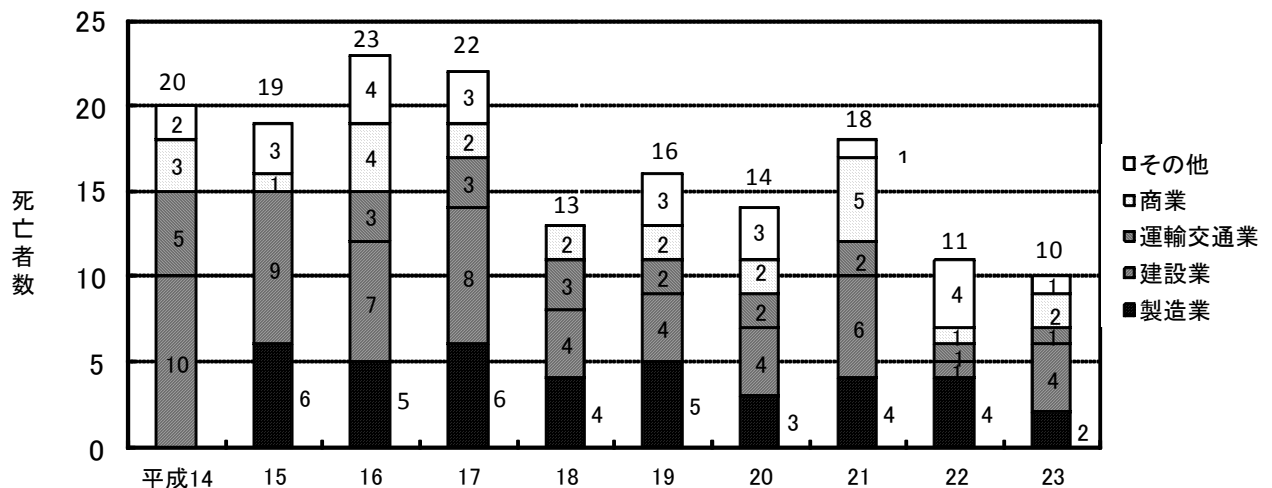


② 死亡災害発生状況

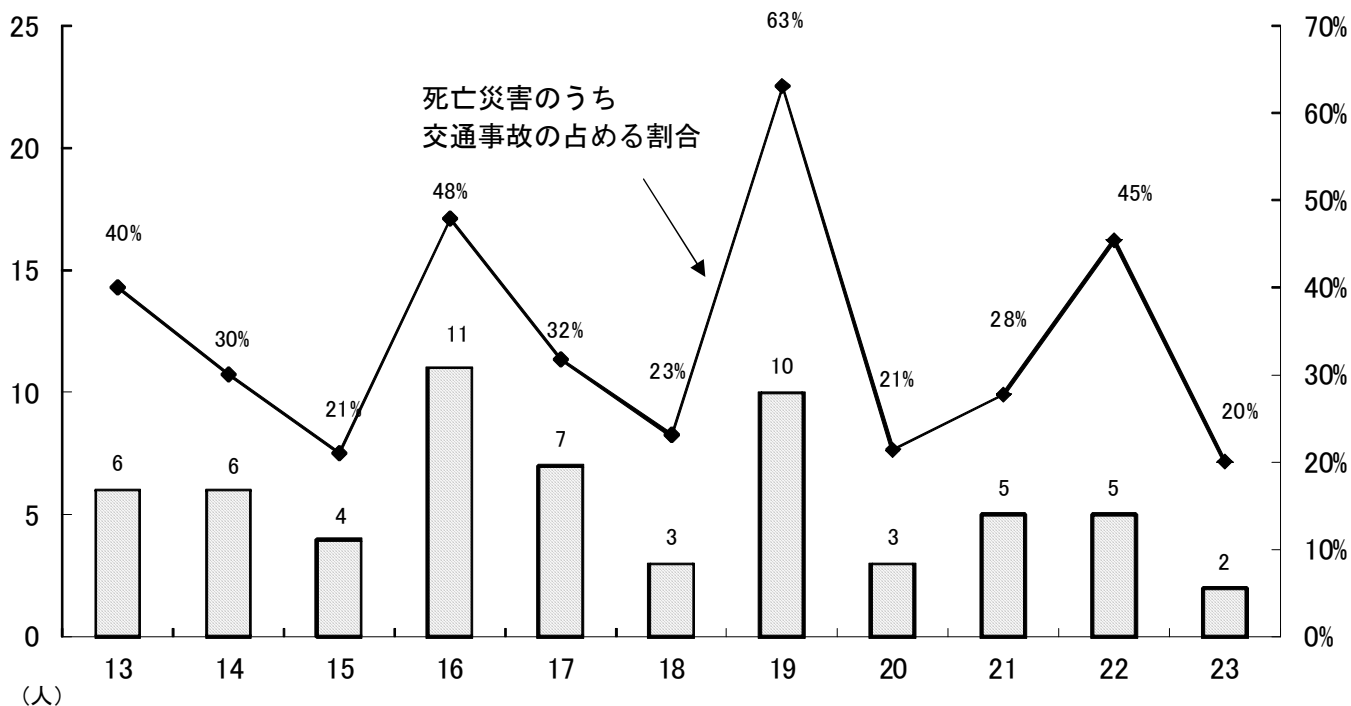
死亡災害は第2図に示すように、ここ数年は増減を繰り返しているが、平成23年は10人で、前年に比べ1人減少した。

交通事故による死亡者数は、第3図に示すとおり2人で、前年比で減少に転じた。

<第2図> 死亡者数の推移



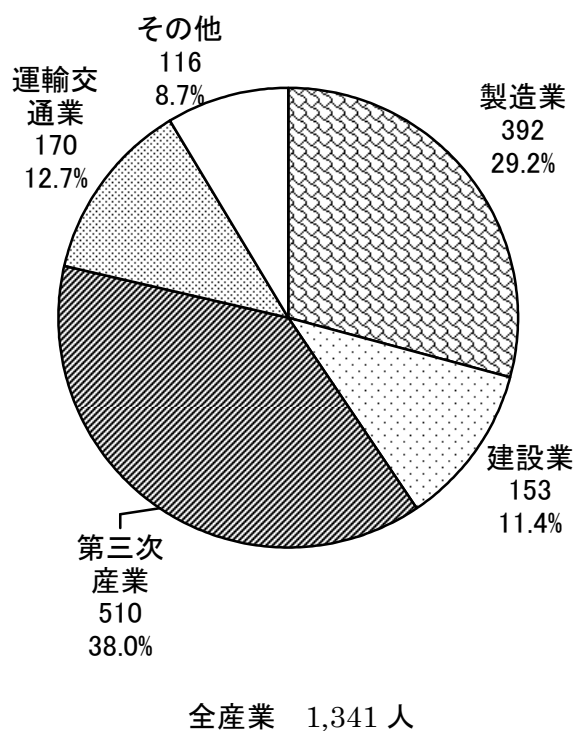
<第3図> 交通事故による死亡者数の推移



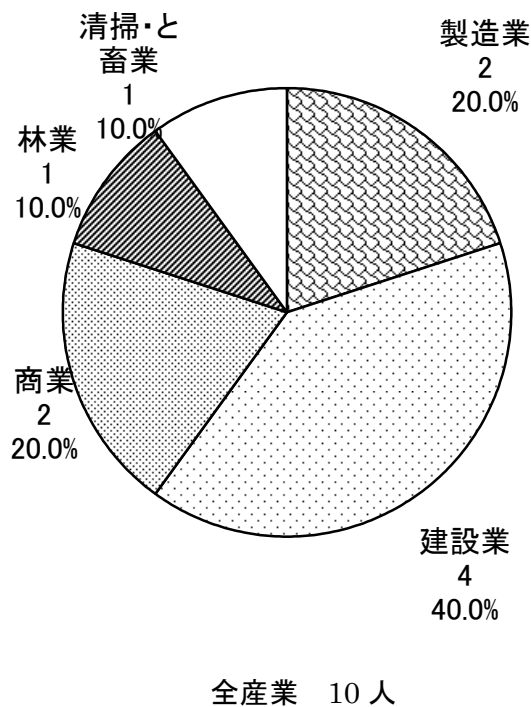
2. 業種別の発生状況 (平成23年)

- ① 休業4日以上死傷者数は、第4図に示すように第三次産業の占める割合が38.0%と最も高く、次いで製造業(29.2%)、運輸交通業(12.7%)、建設業(11.4%)となっている。
第三次産業の内訳は、510人中、商業(168人)、社会福祉施設(86人)、清掃業(37人)となっている。
- ② 死亡者数は、第2図及び第5図に示すように、製造業が前年4人から2人に減少した一方、建設業が前年1人から4人に増加している。

<第4図> 業種別死傷災害



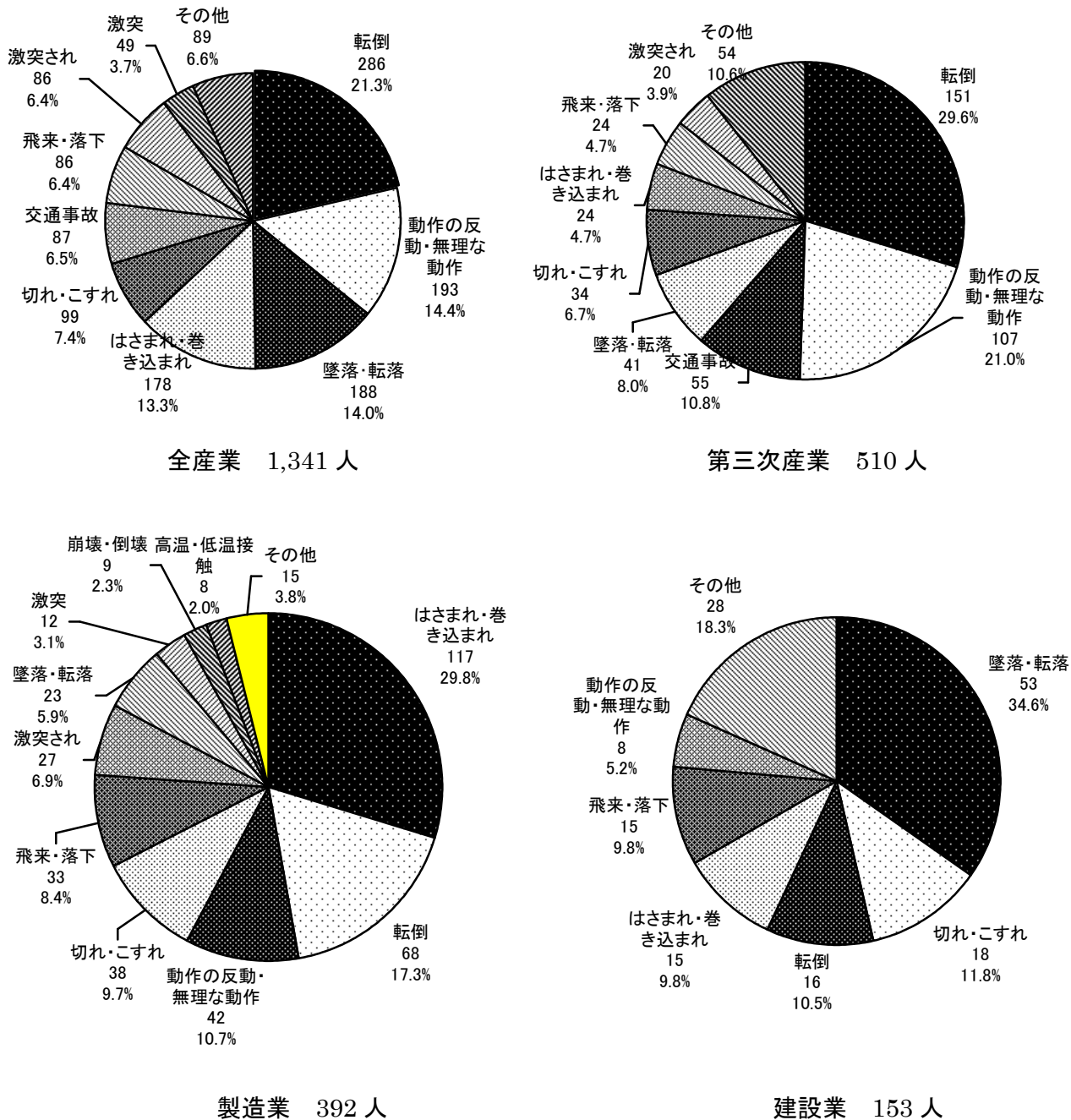
<第5図> 業種別死亡災害



3. 事故の型別の状況（平成23年）

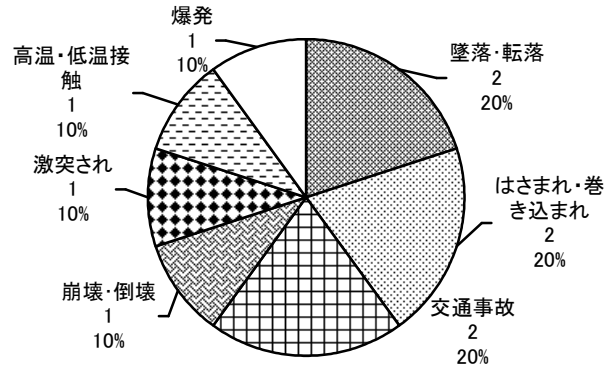
- ① 死傷者数を事故の型別で見ると、第6図に示すように「転倒」が21.3%と最も多く、次いで「動作の反動・無理な動作」が14.4%、「墜落・転落」が14.0%の順で発生している。
- ② 事故の型別の死傷者数を業種別にみると、第三次産業では「転倒」が29.6%と最も多く、次いで「動作の反動・無理な動作」が21.0%、「交通事故」が10.8%の順で発生している
 製造業では「はさまれ・巻き込まれ」が29.8%と最も多く、次いで「転倒」が17.3%、「動作の反動・無理な動作」が10.7%の順で発生している。
 また、建設業においては「墜落・転落」が34.6%と最も多く、次いで「切れ・こすれ」が11.8%、「転倒」が10.5%の順で発生している。

<第6図> 事故の型別死傷災害



- ③ 死亡災害の事故の型別では、第7図に示すように全数10人の内、「墜落・転落」、「はさまれ・巻き込まれ」、「交通事故」が各2人ずつ発生している。

<第7図> 事故の型別死亡災害



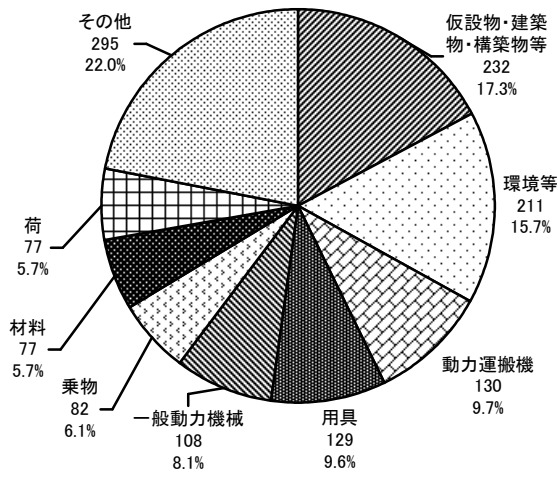
全産業 10人

4. 起因物別の状況（平成23年）

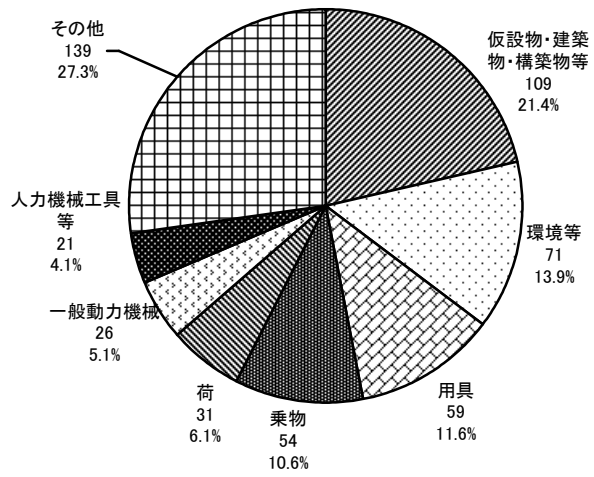
死傷者数を起因物別でみると、第8図に示すように「仮設物・建築物・構築物等」が最も多く17.3%を占めている。

第三次産業では「仮設物・建築物・構築物等」（21.4%）が、製造業では「一般動力機械」（19.4%）が、建設業では「仮設物・建築物・構築物等」（29.4%）が、それぞれ各業種における起因物の内訳で最も多くの割合を占めている。

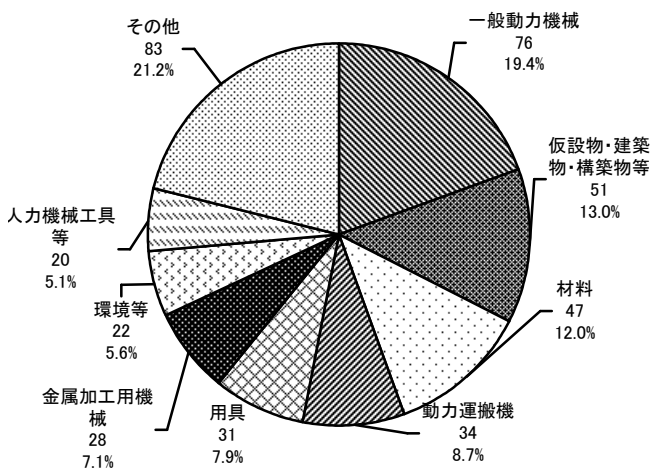
<第8図> 起因物別死傷災害



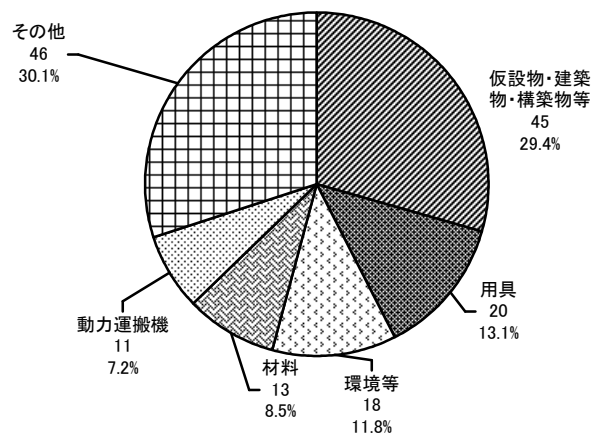
全産業 1,341人



第三次産業 510人



製造業 392人



建設業 153人

*各統計は、「労働者死傷病報告」の集計結果に基づく。